



政治活動ジャーナル 小柳はじめ通信

KOYANAGI HAJIME JOURNAL 2022/11



発行者/
新発田市議会議員 小柳はじめ
事務所：新発田市上楠川 388
連絡所：新発田市大栄町 6-6-4
TEL 0254-26-3596
FAX 0254-26-6495
mail info@koyanagihajime.jp

議員活動報告

最近の主な活動・成果

市民には見えにくい地方議会ですが、意外にも色々なことをやっています。

特に議会運営委員長任期中には念願だった議会改革と広報広聴に着手できて感無量です。その任を与えてくれた、令和会の所属議員や全議員にはとても感謝しています。

※詳しい説明は随時 SNS や動画で配信していきます。

◇◇◇◇◇

総務常任委員長 [2017～2019年]

- 独自の論点整理表を作り意見の集約を進めました
- 強固な反発を押しつけてイオンSSでの「期日前投票所」開設を実現！
- 蔵春閣の移築場所の候補地調整を行い東公園での移築で意見集約を実現
- 上中山豚舎問題を重点審査項目に取り上げ条例制定も視野に調査研究を実施

総務常任委員会
関係団体懇談会を開催

議会運営委員長 [2019～2021年]

- 反対や少数意見も尊重した議事進行を心がけました
- コロナ禍で通常の定例会 4 回以外に毎月のように開催された臨時議会を運営
- 議会報の一般質問で動画リンクを貼り付け手に取ってもらえる内容に変更
- 広報広聴機能刷新の目玉として「議会報」をカラー化し文字数を大幅に減らしデザインを全面リニューアル
- 議会報の巻頭特集を毎回取材編集し愛称とキャラクターを一般公募して市民参加を促す環境作り
- 議会報告会を動画配信化し『マニフェスト大賞』で地域ノミネートされました

決算特別委員長 [2022年]

- コロナ禍で膨張した決算を事前に仕分けし誰にでも解りやすい進行を編み出しました
- 決算から予算に生かす仕組み作りを構築し史上初となる『政策提言』へ結びつけました

◇◇◇◇◇

その他議員としての主な活動

- 給食の給食アレルギー対応に関して請願提出を行いその後大きく対策が前進しました
- 「本会議のオンライン開催」に関して国に対する意見書を県内で初めて提出しました

◇◇◇◇◇

昨年の会派離脱の理由は？

- 私の一般質問に対して「品位」を理由に内容を変更するよう圧力を掛けた議長に対し不信任案を上程（否決）
- 自由で制約のない議員活動を求め所属会派を離脱し無所属の議員となりました

「蔵春閣」移築
工事現場を視察

二階堂市政の3期12年間を検証。私の採点ではビミョーな68点！

市長選では全市的な争点にはなりません。小柳はじめが独自の視点で問題提起！



他市と比べ財政的には悪くはない。 全体的にそつのない印象だが…

- 国の補助金をうまく活用する手堅さがある。そのため市の普通預金と言える「財政調整基金」が比較的潤沢。新型コロナ禍ではスピーディーに対応できた点はある程度評価できる。
- 一方で、新発田市独自の思い切った投資的政策はほとんど見られない。このままでは地域経済はじわじわと衰退する一方。もはや衰退しつつある。「茹でガエル」と言う比喩表現は新発田にピッタリ。
- 例えば、私が10年前から提案していた「サテライトオフィス」もようやく旧天王小学校に先月開業したばかり。せめてあと5年早ければトップランナーの一角を担っていたのでないか。
- 国の施策をちょっとだけ先回りして自身の実績にしてしまうのがとても上手い。アピールする小中学校エアコン設置などは良い例。反面それが凶と出たのが3期目の目玉「保育料無償化」の公約違反。
- 経済対策などで「新発田は羨ましい」と周辺市町村が言うが着手のスピードは評価できる。と言うより他市町村の首長が公務員出身だから公金投入へ腹を括るのが遅いだけのこと。

市役所業務のDX化がポイント。 人件費の圧縮はどうなった？

- 1、2期目の公約で新発田市の公務員の総人件費の削減を掲げていた二階堂市長。広域合併により人員は自然と減少したのであって何かをしたわけではない。
- 業務のやり方が昔のまま変わらないため、職員のムダな負担が増えていく。紙とハンコ中心の生産性の低い事務業務を抜本的に見直すべき。部署単位でノーコードアプリの活用を。
- 専門担当者としてCIO（最高情報統括官）を任命しIT化を推進。全庁的なDX化を推進して人にしかできない市民の声を聞くなどの業務に時間を当てよう。
- 職員のマルチワーク化を進め、正規雇用を増やす。特に非正規公務員は働きに見合った正当な給料を。

蓋をしてはいけない案件。市民は最後まで見届けよう。

- 2017年に発生した中学生のいじめ自殺に関する裁判。私の質問に対し裁判所からの和解勧告を拒否したのは市長の指示だと認めた。謝罪と再発防止を早期に実行すべき。成人となった加害生徒らの心の重しを解放できる。ご遺族への誠意ある対応を望む。
- 私立保育園に対する市独自の「特別委託料」見直し問題はあまりにひどい話。早急な定員増を求められて血の滲むような努力をした民間施設に対して平気でハシゴを外すのは如何なものか。
- 第三セクター「紫雲の郷」はフグの養殖失敗により経営が悪化し泥沼状態。早期にコンセッション方式などで民間に運営を移譲すべきと考える。新潟空港から最も近い温泉&リゾート施設でありながら収益を生み出す組織にはほど遠い。
- 「蔵春閣」は無償で譲渡されたものの活用法は今頃考えている有様。市長のアキレス腱なので選挙前にはプラン発表するでしょうが、付帯設備で2億円もの初期投資と維持管理費用は今後も発生する。街に人を呼び込み活性化や観光につながる有効なアイデアを。このままでは事実上の閉館となった旧県知事公舎の二の舞となる。
- 市民から設置要望の出ている「ミュージアム」。博物館や美術館は補助金が乏しいがシビックプライドの醸成は目先のお金で買えるものでない。ふるさと納税の使途メニューにするなど特養二の丸移転後の新発田城址公園再生の起爆剤にすべき。
- 世論の高まりで宣言した脱炭素都市。ESGに案外無頓着な市長。再三提案した小水力発電は民間任せで実績だけは自分のものに。建て替えて蘇る筈の紫雲寺風力の株式はさっさと売却。私が提案した防犯灯の面的LED化はせず故障の度に個別交換のムダが発生。
- 小学校統合と合わせての整備方針だった公共交通。私が提案した「通学&生活」分離方式に方針変更されハーフデマンド方式で運行開始。今後は循環路線での利便性向上や、自家用有償旅客運送や福祉送迎と統合した地域交通システムを目指すべき。
- 私の議会質問に対し3期目の市長選挙で旧統一教会から電話かけスタッフのボランティア受入を認めた。イベントでの来賓出席もあり結果的に広告塔に利用された。しかし被害者救済のための窓口設置の考えは無いと答弁。

あなたと考えたい、新発田の今と未来のこと。

新発田市長選挙が11月13日に告示されます。

そこで今一度、市民の皆さんに考えてほしいことがあります。

農業にはのびしろしかない

現在の新発田市は、どんなことが課題ですか？

最も大きな問題は人口と雇用です。日本中どこでも少子高齢化で人口減少が課題となっていますが、市町村の努力と工夫によって移住やUターンの人口を増やすことは可能だと思います。

人口減少の原因をひも解くと、新発田市の場合は進学などにより市外や県外に出たまま戻らない若い女性が多いんです。男性は家業を継ぐためにUターンする人も一定数いますが、若い女性がやりたいと思える仕事が少ないという根本的な問題があります。



若者や女性の新規就農で人気の高いイチゴのハウス栽培は施設園芸の救世主

新発田は食品工場や建設業が多いイメージです。

もちろんそれも大事な産業ですが、私は農業にチャンスがあると思っています。特にイチゴやトマト

聞き手：Kyoko

所を誘致した「鶴岡サイエンスパーク」の実績があります。あれは大きいに見習うべき。企業誘致というイメージがあると思いますが、もっと思い切った最先端研究に取り組み企業や研究所を誘致した方がいい。迎え入れる市民も良い刺激を受けるでしょう。



400名以上の研究職の新規雇用を生み出した鶴岡市先端研究産業支援センター

人に来てもらうには暮らしやすさも整備する必要があります。

私が考えるのは「クラインガルテン」と呼ばれる農場付きの借家です。空き家を活用して家庭菜園くらいの畑を付けた住まいを用意して、移住者を受け入れる。移住あるいは都市と地方の二拠点生活を考える人の受け皿になります。

進学を機に新発田を出た人への情報発信もやってはいますが、内容が役所的。もっと改善できると思います。定期的に新発田に足を運んでもらえるように、同窓会の補助金を出すのも有効だと思います。

エネルギーの地産地消を

経済面はどうでしょうか。

経済を活性化するには「入るお金は増やし、出るお金は減らす」が原則。新発田市は食料自給率が非常に高い一方でエネルギー自給率は非常に低く、市からたくさんのお金が出てしまっています。紫

雲寺の第三セクターだった風力発電会社の株式を売却したのは、はっきり言って大失策。脱炭素の世界的な流れに乗って「ゼロカーボン都市宣言」をした矢先だというのが非常に矛盾しています。

新発田なら風力、水力、太陽光発電が有力です。たとえば小規模な発電事業を立ち上げ、発電した電気を市が買い取り、市内の公共施設や学校で使う。そうすれば電力会社に支払うお金をカットして、地域の中でお金とエネルギーを回すことができます。ではそもそも発電設備を作るお金はどうするかといえば、私なら市民から出資を募り「市民ファンド」を作ります。事業がうまくいけば配当がつく可能性もあるでしょう。自分達を使う電気を自分達で作る「エネルギーの地産地消」が私の提案です。



藤塚浜には県下でも古い500kw風車が4基、胎内市は2Mkwの大型風車10基が続く

お金を回す方法はありませんか。

市内で生み出したお金を市外に流出しないために地域通貨の導入を考えています。過去に何度か議会で提案しましたが毎度スルーです。お金を生み出すのが食糧とエネルギーなら経済の循環は通貨しかありません。事業にはヒト・モノ・カネが重要といいますが、住民福祉の向上や地域交通にも使えます。ボランティア的な謝礼に使えば市民協働促進の重要なアイテムとなります。

和解と謝罪を今すぐに

子育てや教育はどうですか？

小学校の統廃合により複式学級は解消されつつあります。それに伴いスクールバスの整備は大きな課題です。国の補助金が出るのは小学生で片道4km以上、中学生で片道6km以上。あまり現実的ではありませんよね。小学生は片道2kmが限界ではないでしょうか。国の補助金を待たなくても坪があかない。新発田市では冬季のみ片道2.5km以上はスクールバスを整備しましたが、まだまだ不十分だと思います。

給食費にも課題があります。新発田市は第3子以降を給食費無償としています。実は3人以上が同時に義務教育にいたる条件。看板と中身のギャップがありすぎると思いませんか？恩恵を受けられる対象も期間も非常に限られています。

2017年に新発田市内の当時中学2年生の男子生徒がいじめを受けて自殺した問題も決着がついていません。ご両親が市に対して損害賠償などを求めて裁判を起しています。いじめにあたる行為があつたことを認めた一方で、加害生徒の情報を知りたいというご遺族の訴えを、市長は拒否し続けています。これは即刻和解すべきです。

加害者もそろそろ二十歳になる頃いつまでも裁判が続いてどんな心境でしょうか。すぐに裁判所の指導のもとで情報を開示し、ご遺族の気持ちに誠実に応えるべき。そして再発防止策を講じるべきです。私はこれからも議会で問い続けま

教育委員会は再構築を

他にも教育現場の課題はありますか。

新発田市は小学校高学年頃になると学力の低下が見られる傾向にあります。これは他の地域が伸びている影響もあるでしょう。改善するには幼児教育を充実すべきと考えます。具体的には語彙力を上げるために2〜3歳頃から読み聞かせに触れること。市が専門の人材を雇って育成し、保育園やこども園に派遣するしくみを作れば良いと思います。それに幼児期からのプログラミング教育も。これはより、論理的思考を養うことが目的。遊びの一環でやるのです。



プログラミングで様々な夢を目指す子どもたち

スクールロイヤー（弁護士）の配置もぜひ前から提言しています。トラブルの防止や解決はもちろん、現場の先生の負担を軽減することで教育の質を高めます。現在は、大人向けの生涯学習やコンサート、図書館や文化財管理なども教育委員会の管轄。私には違和感があります。文化やスポーツは街を活性化するための重要なツール。教育ではなく産業や観光と結びつけることで柔軟なアイデアや活気のある活動が生まれるのではないのでしょうか。教育委員会は学校教育のみ専念することで本来の役割を果たすことができると考えます。